

に徹し、物に體して遺すなく、時に中して息むことなき道である。故に之を自得すれば、身を動かさずして神明に感通し、坐を離れずして天地に逍遙し、幽明の境、古今の間物として應せざるなく、事として感ぜざるなき教である。斯道は我國開闢以來、神隨に神人相傳ふる大道で、人爲の作制に與からぬ故に、斯道を修むる者も亦神傳のまに、飲食を清らし、衣服を潔らし、齋戒沐浴して物忌法を修め、清淨無爲にして、神事内外傳を習ひ、形體神氣の穢濁を祓除し、神思を凝し、精誠を致し、鎮魂惟神の妙境に到るを期せば、是身直ちに神明に接し、是心直に神明に參し、親しく神の靈妙に感通して、人の知る能はざる事を知り、人の爲す能はざる所を爲し、幽顯貫通の眞諦を自得して、造化氣化體化の蘊奥を究め、神道の眞契を得て、超然塵世の表に卓立して、溷濁の世道を清め、邪曲の人心を正し、天地の妖氣を祓除して、天下の正氣を鼓舞し、國家の妖孽を去て、世間の禎祥を來す者なりと示されて居る。畢竟するに顯幽兩教の折衷調和説であるが、神人相傳の惟神の道を修するには、身心の清潔を期する爲に神事内外傳を習はねばならぬといふのである。即ち道德の實行と共に靜座内觀の旨をも得せしめんと期する傾のあるもので、實行教と禩教との中庸説とも評

すべきものであらう。

(六) 御嶽教の教義

神宮管長の言に、夫れ本教奉齋の大神は、天地の根源を統べさせ給ひ、幽玄の位にまします天之御中主神、魯岐高皇產靈、神魯美神、皇產靈。天地萬物の活動存在を護らせ玉ひ、顯明の徳に在ます可美葦牙彦舅、天常立、國常立。大靈神、遠化主宰の大神にして、此神國の大稜威のありませる根本大神なり、されば此幽顯の大御威徳は大元唯一の造化大靈と鎮まり給ひて、發しては累々萬神と現し玉ひ、鎮まりて其御位に在はす時は、浩々として一神に歸したまふ。又大巳貴神、少彥名神は、此神國修理固成の護りあらせたまひ、人類の福祉増進の御威徳を醫藥禁厭の靈妙神徳に契らせ給ひ、萬物の眞美を知らしたまふ、斯く廣大無邊なる、畏くも尊き三太氣大神なり、それ大元は一に合して萬象を統攝し、活動に入りて三となり、轉々徹環して、万有共生の誼を爲し、更に分合して、大正の妙用に歸す。太氣は太き、廣き、嚴めしき、天地間の元氣にして、三は造化三大神の三なり、古來山の高き、貴き、所秀絶なる、元氣の在ますに、輸へて嶽の稱あり、御は敬ひ貴ふ言葉にして、御嶽は高天原なる神の宮居と稱し奉

るものなりとある之にて本教名稱の由來を明かにすることが出来る、ツマリ神の廣大なる徳に浴するとの意味であらうが、其三の數を貴び、且つ神徳を山に譬へた所は、恰も天台宗が三尊佛を立て、山王の文字によりて比叡山に配した所などに似通ふて居る。

(七) 禊教の教義

柴眞住氏の言に依れば、此の教は幕末に起つた禊教を承繼して居るもので、凡そ天下の物實なれば則ち名あり、名は實の實なり、是を以て皇國は實を貴んで名を殊にす、唯誠をこれ教となす、漢土、天竺、西洋等の如く、徒に名儀方便を以て教と爲すの類にあらず、眞に能く大道の根元を得て、萬國に冠絶たりといふべし、宜しく此意を體して、三條の教憲に基き、丁寧に説明すべし、これ本教の各教師に對する訓辭なり、苟も人たる者は、四恩の徳澤に因て生育するの眞理、報本反始の志を立て、安心、立命を決定し、自然神明の徳を得て、心中百念を解除し、至誠、無爲の地に至るを期すること、これ本教徒の面目なりとある、即ち神の信仰によつて道德の旨を得んとするもので、而も神の道なる清淨の神事に則らねばならぬと形式に重きを置く所は、恰も佛

教に於ける淨土宗の如きものであらう。

(八) 神理教の教義

佐野管長の言に曰く、本教は高祖天照國照彥火明櫛玉饒速日命の遺教を奉じ、言靈を明かにし、神理の教義を明徴にするを以て本旨とす、本旨は一向專念在天諸神の無量不測の妙靈、顯幽無二、天然固有の理法を尊奉し、安心、立命を旨とし、神氣を呼吸し、神人同感の至誠に契合し、百難萬病は心より生ずる故に、心を正しく行を直くすれば、百難自ら消除し、萬病乍ち平癒し、行へば成り、祈れば驗ありと決定し、理に合はざることは言ふことなく、行ふことなく、口に唱ふる事は一念之を守り、身常に之を行ひ、虚禮を捨て、實務に就くを主とす、本教は君父を蔑視し、子孫を斷絶せしむる如き異論邪説を排斥し、大義名分を明にし、報本反始の禮を厚くし、饒速日神の遺教を承けたる五十言、宿禰の古傳に係る五十言傳なる言靈學を振起し、國風を振興する爲め神字神書を教授し、禮法の古道を保存するが爲に、神樂、活花法を恢復することに意を留むるものとすと、之にて我が大八洲の言靈の妙用を信じ、治心術によつて、安心、立命の地歩を得せしめんと期する、道德教なることを了解すべきである。

而も神傳の故事を修して其の道の蘊奥を探らんとする如きは、佛敎中の眞言に似た所がある。

(九) 天理敎の教義

松村幹事の全敎説明に曰く、本敎は天理大神を以て宇宙の主宰者となし、人類の救濟者なりと信じ、又大神の靈徳の妙用は、十柱の神即ち國常立尊、國狹槌尊、豐斟淳尊、大苦邊尊、面足尊、惶根尊、伊弉諾尊、伊弉冊尊、大日靈貴尊、月夜見尊等に現はれたまふたるを信じ、之を以て奉敎主神と崇め奉りぬ、而して大神の仁愛は無限にして、一切人類を子とし給ふが故に、敎祖は之を、天の親様と唱へられ、又神の御心は、一切の處に布遍して、宇宙進化の大法即ち神の内在的顯現と見るべきが故に、神は理なりと敎へられたり、故に天理大神は天啓の本にして、我等信徒が靈敎を汲む源泉なりと。此文中に敎祖といへるは世に著明なる中山美伎子であつて、彼の人格特に其敬虔と仁愛とに充ち満てる心情が、天啓を受けて之を傳ふと信者の推尊せる程であるが、其の之を天啓敎といふだけに、極めて單純なる敎旨であつて、敎祖の意を窺ふべき文字としては、御神樂歌なる敎訓が存するのみである、而も天の親様即ち天理大

神の敎を信じて奮闘すれば、其の理想を實現し得るといふのであるから、其の説く所も極めて平凡で俚耳に入り易い、されば松村氏又曰く、努力と奮闘とを以て地上天國の理想を實現するものを、ひのきしん即ち日の寄進とす、日の寄進とは、或高きものゝ爲に、自己を犠牲に供し、献身的に勞働するの意義なれども、その根本的眞理は、吾人個々の小我は宇宙の大我即ち神の顯現なるが故に、此の小我を擺脫すれば、直ちに神と合體して神様を現すといふ信念に存し、又小我を擺脫するは、主我的觀念、利己的觀念を排斥するに外ならずと信念に存し、又勞働は、人類が現世に於ける一切の事業を成就するの必要條件なりとするも、主我的觀念、利己的觀念を排斥せざるの勞働は、却て罪惡を増長するものにして、地上天國の理想を實現するにあらざる所以を確信するに存する也と。然れば天理信者は大神の爲には一切平等の身となりて働くといふのであるから、宗敎信者としては如何にも健氣なることである、然し之が爲に自然の階級ある社會差別ある社會に處して、往々無差別平等の爲めに其の身を過つ虞れがある、それが文字もなく理想もなき信者であつたならば、其の宗敎家らしき所はあるとしても、一層其の身家を傾くる虞れが一方に於て

多くなつて来るてはなからうか此の社會主義と同一の弊に陥らんとする所が大に注意を要する點であらう、而も此の教が奮闘して自派の勢力を社會に張る所は、佛教中の日蓮宗に似たといふべきであらう。

(十) 金光教の教義

金光教の教義に就いては長谷川宣教師述べていふ、抑々金光教は宇宙萬物の根源て、人類の本體たる天地金乃神の神旨を受けて開創されたる教祖金光大神の信條を教義とし、之が布教宣傳を以て本位とするのである、本體の親神に接觸し、教祖生神に靈感して、人としては其人格、神の氏子としては其神格を完成し、以て神人冥合顯幽に感通すべき、人にして神神にして人たる、生神の靈徳に到達すべきは、金光教者の目的で、此神は、此人は、其使命は、其眞價は、乃至其自覺、其行路は、闡明にして實行を促して止まないのが布教である」と、これ金光教の意義を明かにし、其の布教の目的を示したものであるが、かく直接神に縋るといふことは、邪心や私慾を有して居つては決して出来ぬことであるから、通俗教化としての効果も少からず、人をして安心決定せしむることも輕便である、此の教義は、恰も天の父なる神を信ずる基督

教徒が主耶蘇に縋るといふのと殆ど同一であつて、一向眞宗の彌陀一佛に歸依して己れ現世の彌陀如來と還成するといふのと擇ぶ所がないのである、即ち凡俗教化としては、最も易行道にして而も筋道の立つた説き方である、教祖金光大神の言に、「今月今日で一心に頼め、おかげは和賀心にあり」とか、神は我が本體の大祖ぞ、信心は親に孝行するも同じ事ぞや」とある如きは、天啓教の上に治心の易行門を開いたもので、而も其の本體を我が祖神に置いたから、國家の上より見ても國體上に害は無論ない、之が同教の特色であらう。

要するに神道の各派は、國民の信仰を支配せんと期する爲に、何れも其の教義を人心の幾微に入りたる宗教的に立て、あるけれども、本來が現世教であつて、且つ祖先教で又國家的宗教であるから、佛教各宗の如く深く未來を説き、又幽玄の哲理に進み入るといふ點は少い、而も風土氣候好尚の上から、現世的で樂天的である日本人の耳には、直截簡明を貴ぶ所より、入り易く信し易きに相違ない、吾人は神道の各派か其の思ひの特色を發揮して二十世紀の世人を教化し、之に安心立命の地歩を與へ且つ世教道徳を實行せしむる實力を養成するに至らんことを希望し

て止まないものである。

心理回照ノ主神

神代開書ニ云ク、本來我身ハ大虚神明ノ分身變化ナル故ニ、大虚神明ノ本體ヲ失ハザルヲ身ヲ立ツルノ正直ト云フ、道ハ自然ニ備ハレリ、之ヲ行フトハ、人唯ダ天心ノ端緒ヲ失ハズシテ充ツルニ有ルノミ、充ツルトキハ則チ成リ、充タザレバ則チ亡ス、天理ニ從ハザルハ不正直是ナリ、其レ教ノ人心ヲ開示スル事文々句々其人ニ納リ安キヲ以テストイヘドモ之ヲ納レテ回照スルノ主神アレバナリ、此神固ヨリ正直ニシテ一毫ノ私ナク、而モ天地萬物同基ナレバ、知ラサル所ナク、至ラザル所ナクシテ、天ノ磐石ヲ開キ、八重雲ヲ撥キ別ケテ聞シ食セリ、彼ノ教フル所ノ善言美詞ハ是レ心神ノ述べ置ク所ニシテ、外ヨリ新ニ來ルニハアラザレバナリ、然レバ固有具徳ノ一旦開カザルガ故ニ、正直鏡裡ノ無私自照ニ暗ク、此生徳ノ神用其儘ニ行ヒテ、我身大古ノ諸神同一ニシテ有難ク得難キ分徳アル事ヲ知ラズ、偏ヘニ遠キニ求メ、異ヲ留メテ道ト爲シ、日ニ神明ニ隔ルコト吁悲イ哉

大正六年九月十五日印刷
大正六年九月十八日發行

三大宗教
定價金一圓

編輯者兼 高島大圓
東京市小石川區原町六番地

印刷者 佐久間衡治
東京市京橋區西紺屋町二十七番地

印刷所 株式會社 秀英舍
東京市京橋區西紺屋町二十七番地



發行所

東京市小石川區原町六番地
電話小石川一八二八番
振替口座東京一五六八六番

丙午出版社

印度哲學宗教史
 文藝博士 高橋順次郎先生共著
 文藝博士 木村泰賢先生著
 定價 郵税 八圓
 本書は著者が印度の哲學宗教の大成は日本學界の本務なりといふ確信の上に立ちて久しく東京帝國大學に於て講述せる稿本を増補整理したるものにして斯界唯一最高の權威なり收むるところ吠陀、梵書、奧義書、經書及び諸學派の開展に涉り洵にこれ印度の根本思想を説述して盡くさざるなきもの苟も世界無比の寶庫と稱せらるゝ印度古代の文明について闡明するところあらむと欲するものは須くまづこの秘鍵を握らざるべからざる也

印度六派哲學
 文藝博士 高橋順次郎先生著
 定價 郵税 二圓三十錢
 六派哲學(數論、瑜伽論、勝論、正理論、ミーマインサー、ギーダーンタ)は印度哲學の代表的思潮にして一元論二元論多元論の爭汎神論有神論無神論の別機械論目的論虛無論の主眼等一としてこの中に含まれざるはなく又これを學科の性質より見れば物理學論理學純哲學宗教哲學實際哲學等悉くこれを網羅せんとすことなし宜哉歐米の學界に印度哲學と稱へば直に以て六派哲學を意味するが如き状態あることや然るに我國未だ嘗てこれを研究する者少くその完成を告ぐるや更に東京帝國大學に於てこれを講ずることと木村先生夙にこれを慨し研究多年漸くその完成を告ぐるや更に東京帝國大學に於てこれによりて今更の如く印度思想の雄大深遠なるに驚嘆する者多き貧弱なる我國の思想界に向ひ本書の如き先人未だの研究にして斯學最高の權威たるべき名著を推薦することを得たるは實に弊社の誇たるのみならず也

宗教と哲學
 文藝博士 松本文三郎先生著
 定價 郵税 七圓八十錢
 本書全編十有四章まづ筆を「釋尊は何を説きしか」に起し「宗教と道德」「研究と信仰」等次第を逐うて遂に健全なる宗教の基礎は哲學的論據に在ることを説明し延いて老莊程子の支那哲學に論及す惟ふに病弱なる現代の思想界は此書によりて元氣の回復を求め得む乎

宗教學綱要
 マクス、ミュラー博士原著
 文藝博士 清水友次郎先生譯
 定價 郵税 五圓八十錢
 清水學士佛教大學に教授として宗教學を講ずるや近代稀有の宗教學者マクス、ミュラー博士の原著を講本とし隨つて譯し隨つて教ふ今これを補訂調節して以て世に公にす蓋し邦文の宗教學書としては唯一無二の良書なり

宗教と倫理
 第三高等學校 野村直太郎先生著
 教授 文藝博士
 定價 郵税 五圓八十錢
 正にこれ新宗教論なり新道徳論なり而してまた實に人生問題最後の解決書なり世の靈と肉との饒湯に悩める者知と信との衝突に苦しめるもの若しくは夫の舊宗教と舊道徳とに厭けるものは速に來つてこゝに無上の安樂地を見出せ。附録には二宮尊徳翁の宗教論を評す

眞宗の教義
 眞宗補教 北條蓮華先生著
 定價 郵税 十二圓
 眞宗は實に日本佛教の精華にして又實に日本佛教の最大勢力なり本書は博識篤學を以て聞えたる北條師が多年の遺著を傾け宗祖親鸞上人を中心として其師法然上人と其資運如上人との教義を信仰上より研究したる結果を組織的に叙述したる者なり他力教の秘奥を探り本願寺の盛なる所以を知らむとする者の必讀を冀ふ

孔子傳
 文藝博士 遠藤隆吉先生著
 定價 郵税 四圓四十錢
 その涉獲極めて廣汎にその材料極めて豊富にその觀察極めて鋭利にその論斷極めて適確なるは勿論殊に各編各章到處に博士獨特の奇想と先哲未言の結論とに接するを得るは洵に本書の特色として天下に誇稱するに足るところ

聖徳太子傳
 東洋大學講師 境野黃洋先生著
 定價 郵税 八圓
 佛教史家として夙に令名ある境野先生が其の熱心なる史眼と圓熟せる文才とを傾倒して日本文明の開拓者日本佛教の教主たる聖徳太子の事蹟を叙述し併て當時社會の政教習俗の特色を發揮したる名著にして文章の明快論斷の適確實に他に其の匹を見ざる所

彌勒淨土論
 京都帝國大學文科大學長 文藝博士 松本文三郎先生著
 定價 郵税 八圓
 宗教學上殊に佛教史上理實の兩方面に涉り極めて重要な地歩を占むるものは「淨土の思想」なり而して其半面は「阿彌陀淨土」の闡明によりて光輝を放てるも其他の半面は「彌勒淨土」の埋没によりて全然暗黒に歸すこれ豈佛教史上の一大缺點にして又實に佛教界の一大恨事ならずや松本博士多年の遺著を傾けその專攻する學科の立脚地より「彌勒淨土」の由來淵源を詳論し博士の著者「極樂淨土論」と相待つて茲に佛教の淨土思想研究に完璧を成せり何人か又此の新研究を味はすして恣に佛教の淨土思想を談ぜんとするものぞ

釋尊の研究
 文藝博士 松本文三郎先生著
 定價 郵税 八圓
 本書筆を釋尊以前の婆羅門教の理想に起して釋尊當時の印度諸學派の狀態より進んで釋尊の根本思想に説き及び以て釋尊の世界觀人生觀生死問題の解決及解脱の方法を明にし更に釋尊の涅槃に移りこゝに著者の全力を傾倒して詳に涅槃の意義を解し具に東西學者の謬論を破る誠に教界及學界に於ける尊重すべき一大新研究なりと稱すべし

佛典の研究
 文藝博士 松本文三郎先生著
 定價 郵税 九圓八十錢
 松本博士は佛典の本文批評に於て實に日本學界のオーソリティー也多年その遺著を傾けて研究せられたる佛典に幾十種加ふるに最近燦爛その他に於て發掘せられたる佛典の研究は正に先哲未だの新説なりとす佛典の眞偽を如何に辨別し經論の精神を如何に會得すべきかに心を勞する人まづ此書を一讀せざるべからず

王陽明
 高等師範學校講師 亘理章三郎先生著
 定價 郵税 一圓五十錢
 哲人王陽明もまた凡人吾等の如く事毎に理想と現實との衝突に逢うて悲觀し懊惱したりし也しかも能く自ら百般の問題を解決し盡くして遂に悟徹の妙境に入る豈偉ならずや本書はこの王陽明の人格を主題として其の實生活と學說とを併叙し依つて以て凡人が如何にして哲人たるを得しかの歷程を明にし吾等修養の範としたる者なり

文學博士 村上專精先生著
俗修養論
 定價金 八圓
 郵税金 八圓

古聖實踐の芳躅を辿り前賢研究の結果を收め苟も規箴とするに足るべき名論金言は悉くこれを授け引して依て以て極めて平易に修養の理論を説明し苟も模範とするに足るべき善行美談は悉くこれを蒐録して依つて以つて極めて明快に修養の方法を叙述す恐らくはこれ斯界未だあらざる精到完備の修養書たらむなり

文學博士 村上專精先生著
改訂 自修信錄
 定價金 六拾錢
 郵税金 八拾錢

これ博士の著にして又實に博士が信仰の告白なり言々己の實驗を語り句々心の奥底を披露すまづ筆を「人生の目的」に起して「目的の成否」を明にし「實在と我れ」「佛陀と我れ」の關係より「自力と他力」の異同に及びて之を結ぶ五章廿七節説いて至らざるなく述べて盡さざるなし進歩せる佛教學者の見解は此書によつて窺ふべく敬虔なる佛敎信者の態度は此書によつて知るを得べし

文學博士 村上專精先生著
誠のしるべ
 定價金 四拾錢
 郵税金 八拾錢

誠は實に人生の基礎をなすものにして政治も實業も宗教も道徳も教育も凡て此の根底の上に立たざるべからず今や村上先生古今東西の事例を引いてその然る所以を詳記せらる苟も誠を體得して眞の人たらんと欲するものは此書を読め

文學博士 村上專精先生著
女性訓
 定價金 四十錢
 郵税金 六拾錢

本書の内容は天職中庸質素謙節操の五訓を以て女子座右の箴言となすにあり多年女子教育に經驗を重ねたる村上博士はよく女子の缺點を攫み來りて之を訓誡すその親切實に至れり盡せり凡て世の淑女たらむと欲する者は必ず其の座右を離すべからざる珍書なり

文學博士 村上專精先生著
科註原人論
 定價金 十二錢
 郵税金 二錢

この二書は共に筆記書入れ等に便せんがため本文の上下に空白を存し置きたれば學校の教科書學會の講本として最も適當なり

杉村縱橫先生譯編
肺病全快術と談
 定價金 九拾錢
 郵税金 八拾錢

本書前編は歐米に於ける最新の肺病根治法にして親しく譯者が實驗してその効果を收めたるもの後編は日本現代の名士が肺病全快の實驗談にしてこれによつて從來不治の病と定められたる肺病も必ず全快すべきものなることを立證せられたり世の醫師に弄ばれ賣藥に欺かれたる人々は本書を讀いて天來の福音に接せよ

文學士 渡邊又次郎先生著
最新論理學
 定價金 一圓廿錢
 郵税金 拾貳錢

本書は哲學の泰斗たる著者が學界の缺陷を補はん爲めに特に選述せる所に係り所論の明晰にして内容の整頓せる簡潔なる叙述の中に學士の卓見を洩したる所他に比を見ざる老熟の大家なり又欄外に重要な題目を掲げ卷末に英語と對照せる詳細の索引を附したるが如き讀者の便益之に過ぐるものなかるべし

文學博士 澤柳政太郎先生著
退耕錄
 定價金 八圓
 郵税金 八圓

著者の序文に曰はく「官遊十數年其間人よりも多く云ひ多く論じたるも尙ほ腹ふくる心地を忍んで言はざりし者多し」と知るべし本書は先生が實歴上百般の問題に逢着して滿腔の所感を披瀝したるものなることを諷刺あり教訓あり感慨あり痛罵あり氣焔あり理窟あり警拔にして透徹せる觀察あり大膽にして穩健なる斷案あり言はんと欲する所は言ひ盡くして毫も時勢に阿らず誠に憂國憤世の大字文なり經世家教育家及現代の青年諸君は須く一讀せざるべからず

久津見藤村先生著
ニイチエ
 定價金 九十錢
 郵税金 八拾錢

ニイチエの研究ニイチエの理會ニイチエの祖述に於て著者の如きは邦人中未だこれあらざる所今其爛熟の想と奇峭の文とを以てニイチエの性格ニイチエの事業ニイチエの思想ニイチエの人生觀世界觀ニイチエの哲學ニイチエの理想を描出し人をして親しくニイチエに接するの感あらしむ

東洋大學講師 釋 清潭先生著
寒山詩新釋
 定價金 五十錢
 郵税金 八拾錢

是れ佛か是れ仙か是れ狂漢か得て解すべからざるものは寒山詩なり是れ韻語か是れ詩語か是れ佛語か得て解すべからざるものは寒山詩なり宜なり千古の疑團牢固として抜けざることや著者精深雄大の學と才とを以て一筆勾斷彼が面目ここに於てか露出す寒山詩禪を知らんと欲するものは須らく此書を以て指南車となすべし

東洋大學講師 釋 清潭先生著
和漢名詩新釋
 定價金 五拾錢
 郵税金 六拾錢

本書、漢は唐宋元明清五朝の高僧に涉り和は虎關以後絶海義堂に至る大凡七十餘人の名詩を新釋したるものなり其詩雄渾なるもの高古なるもの典雅なるもの勁健なるもの婉麗なるもの清秀なるもの幽淡なるもの之れに悉く字解と讀法と評論とを付し平易を旨として深切を極む和漢高僧詩編を釋義して此の如きもの恐くは曠前なるべし

東洋大學教授 土屋鳳洲先生編
評解唐宋八家文鈔
 定價金 四十五錢
 郵税金 八拾錢

夫の唐宋八大家文が文章の模範と仰がるもの久し矣惜しいかな巻帙活潑初學の徒却つて岐路に亡羊の嘆なき能はず今我が土屋先生これを遺徳となし八大家の名文中更にその精髓五十編を選びこれに細評を加へて以て文章の結構作法を知らしめこれに詳解を施して以て故事熟語の意義を明にす學校教科の用書として甚だ適當なるのみならず地方青年獨學の良師として實に得易からざる珍籍たり

文學博士 三宅雪嶺先生著
訂増 偉人の跡
定税價金 八圓 錢四

古今東西の偉人數十名を捕へ其の時代を語り其の性格を論じ其の功過を明に示し觀察發見にして行文微妙今の偉人の眼に映じたる古の偉人の眞面目は躍如として茲に活動する人若し偉人とは如何なる者か偉人は如何にして修養したるか偉人は如何なる事業を爲せしか偉人は死後に何を遺せしか社會は如何に偉人の死を觀しかを知らむと欲せば賞くは此の偉人の偉著に問へ

文學博士 三宅雪嶺先生著
小泡十種
定税價金 四十五 錢錢

博士の學殖富瞻に博士の見識卓越に博士の文章超凡なること世既に定評あり今此學と識と文とを傾倒して此著を作す政治を論じ宗教を説き文學を語り人物を評す其の筆の向ふところ流れては濛濛きざる大河となり散じては續粉限りなき飛沫となる小泡か激濤か蓋し近代稀有の快著也

文學博士 井上圓了先生著
活佛教
定税價金 八圓 拾錢

明治の宗教界思想界を震駭せしめたりし「佛敎活論」は本書を以て完成す僧侶の活躍寺院の興隆期して待つべし眞にこれ死佛敎をして活佛敎たらしむるの福音

文學博士 井上圓了先生著
おばけの正體
定税價金 五十 錢錢

本書は妖怪研究の大家たる井上博士が明治維新以後今日に至るまで日本の各地に起つた妖怪事實の中で特に珍な者奇な者恐ろしい者凄しい者憐れな者面白い者馬鹿々々しい者百三十件を調査して一々その原因を示し百鬼夜行の眞相を明にした快著であつて怖がるくせに化物話を聴きたがる小供のために「幽霊の正體見たり枯尾花」など悟つたつもり大人の爲にも趣味と實益とを與へること多大である

文學博士 井上圓了先生著
南半球五萬哩
定税價金 八圓 錢

南半球を一周し赤道を四週し淡洲南阿南米の各洲は勿論北は北極海より南はマゼラン海峡まで行程實に五萬哩の大旅行を試みて其の間の山容水態國情民俗の珍奇怪異を記して遺憾なし挿畫五十餘上更に花を添ふ

醫學博士 岡島狂花先生著
現代の西洋繪畫
定税價金 一圓六十 錢錢

岡島博士多年研鑽の所得を組織して茲に此の書を成すその内容の概略を摘記せむか。一、代表的名畫三十二葉を挿入したる事二、從來ありふれたる氣分的斷片的文集にあらずして科學的の著書なる事三、現代西洋十六ヶ國の繪畫を取扱ひたる事四、筆を太古の繪畫史に起し古き傾向よりの推移期に入り通分て新しき傾向即ち印象派、新印象派、後期印象派、未來派、色彩象徴派、立體派より昨半分れたるオルフィズムに至るまで悉く精叙して盡さるる事五、一千餘語の原語索引を附したる事六、現代の版畫を七節に分ち廣告畫にまで論及したる事

加藤咄堂先生著
原人論講話
定税價金 六十 錢

佛敎典籍多しと雖も之れを儒道二敎の敎義と比較して佛の巔然一頓地を抜く所以を明にせるもの此の原人論に過ぎたるはなし著者今獨得なる通俗平易の筆を以て丁寧懇切に此の原人論を講述し且つ近代思想を以て批評を加へ救世頭には添ふるに古人の解説を以てしたれば佛敎の大意と人生問題の解決とは此の書によりて知ることを得べし

加藤咄堂先生著
通俗講話の理論及方法
定税價金 九十 錢

通俗教育の必要日に通りてしかも通俗に講話し得べき人幾人かある本書は多年の研究と豊富なる經驗とを有する加藤先生が如何にせば通俗に講話して聽者を感動せしめ得べきかの理論と方法とを極めて親切に解説し多くの例話を擧げてその使用法を示されたものなれば敎化の秘訣雄辯の奧義講話の資料收めて一卷の中に在り苟も講壇に立たむと欲する人一たび本書を繕かむか忽にして一箇理想的の通俗講話者たるを得む

明楊起元評註 加藤咄堂先生和譯
和譯維摩經評註
定税價金 七十 錢

本書は明の楊起元が評を如へ註を施して斯經の哲理と文學とを闡明したるものを更に加藤咄堂先生が平明暢達な文を以て之を和譯し傍訓を附して通讀會解に便ならしめしもの世の佛を學び禪を説せむと欲する者には勿論講習本として亦最も適當なり

加藤咄堂先生著
筆舌
定税價金 七十 錢

天下の大雄辯家六文章家たる著者が筆舌生活二十年の經驗を基として演説と文章との秘訣を語り模範を示したる名著にして殊にその生活實験談は正に現代の青年を奮起せしむるに足る大文字なり

黑岩周六先生講演
人生問題
定税價金 七十 錢

人生とは何ぞや是れ千古の疑問なり哲人之を説き碩學之を論じて而して懷疑の雲益々密に苦悶の人愈々多からむとす然るに現代思想家の泰斗黑岩先生自ら人生問題に達着して疑問の源泉を探り大に其深趣を得て茲に此書あり叙ぶる所神の有無に始まり人生の悲觀樂觀に終る眞に天籟の妙音なり世の悶ある人疑ある人遠に來つて此福音に接せよ庶幾くは平穩と満足と活力とを得て温く且つ光ある人生に觸着することを得ん

「萬朝報」記者 大住嘯風先生著
現代思想講話
定税價金 一圓 廿 錢

現代人は須く現代の思想に通ぜざるべからず現代の思想に通ぜむにはまづ其の思想の由來せる傳統を究め進んでゼームス、オイケン、ベルグソンの如き現代思想を代表する大思想家の説くところを知るを要す著者今此等碩學の全體に精緻の研究を加へ深遠なるその根本思想を捉へ來りて明快直截に講話し人をして一讀直に現代思想に通曉せしむると共に又親しく大思想家に接して自己を養ひ人生の意義を了得せしめんとす洵にこれ思想講話に一新生面を開きたるの名著

幸徳秋水が最後の文章

基督抹殺論
郵定價金 八十七錢

一代の論客として知られたる幸徳秋水も誤つて天地の容れざる大逆無道を企て今や遂に斷頭臺上の露と消え去りぬ其鐵窓裡に吟呻せるの間特に此一巻を著す所論痛絶快絶行文悲絶憤絶嗚呼幸徳秋水死に臨みて基督を抹殺したとす抑々何の思ふ所あつて然るか多く語るに忍びざるなり秋水自ら曰はく「是れ予が最後の文章にして生前の遺稿也」と敢て滿天下の僧讀を冀ふ

廣長舌
郵定價金 八十七錢

加藤咄堂先生曰はく「米條今胸中鬱勃の氣を呵して『廣長舌』一篇を著す其の言ふ所は世事に疎なる學者輩の企だて及ばざる所にして其の論ずる所は肉を刺し骨を通して當世人士の肺腑を刺る洵にこれ堂々警世の大文字」と

惡戰
郵定價金 八十八錢

著者曰はく「これ僕が半生の惡戰史なり父なく母なく學なく疎に加ふるに資金なく後援なき裸一貫の青年が如何にしてこの生活難の世に處し來りたるかを語るは又以て現代青年諸君が新運命の開拓に資する處なきを保せざるべし」と

理想的商業
郵定價金 六十五錢

賣ると買ふとは對等なりお客威張つて商人尻こ垂れること甚だ道理なしそれ賣るに法あり買ふに道ありこの法を説きこの道を教へ以てお客様といふものゝ立場を明にし以て商人といふものゝ位置を高め而して買ふものにはうんと買へと勧め賣るものにはしこたま賣れと告ぐるものは即ち此書なり

東洋史
郵定價金 二十五錢

著者曰はく「形に於ては恐らく既刊東洋史中の最も小なるものたるべからむ學生を養くる點に於ては或は最も大なるものあるべきを信じて疑はざるなり」と

一休和尚傳
郵定價金 八十九錢

元日に懶腰を振廻はして人の度膽を抜き末期に養を啼つて梵天に捧げた彼一休後小松帝の皇子として九重雲深きところに榮華の夢を見やうともせず一簣一笠ただ平民的教化のために一生を送つた彼一休痴か狂かした一偉人か彼が眞面目そは本書の上に躍動して居る

修養の模範
郵定價金 七拾八錢

家庭では父母が子供にする話の種に困り學校では教師が生徒にする話材の陳腐なのに窮し寺院や教會では辯士が引用する美談の乏しいのに窮り而して青年は讀んで自修の資とするに足る程の書籍の少ないのを歎いて居る譯者これを憂へ書を讀む毎に精神修養の模範とするに足るやうな美談逸話を翻譯摘録して遂にこの書を成すに至つたのである弊社今こゝに世の宗教家教育家及び父兄青年諸君の前に此書の發行を報告することとなつたのは實に無上の光榮である

修養史譚
郵定價金 八拾八錢

林伯爵曰はく「此の書を讀くに古今東西の史乘より異世同轍の事實二百對を擧げたる者にして教師これをを用ひば以て講話の資を得べく父母これを讀まば以て庭訓の料たらむ」と

人物の修養
郵定價金 五拾八錢

澤柳文學博士特に長文の序を草す其の一節に曰く、「ジョルダン博士は當今世界有数の學者にして北米第一流の人物なり且外國人中最も深厚なる同情を我日本及日本人に寄せらるゝ紳士なり我國人がその所説その意見を知らむと欲するの情並に之を知ること依て利すること妙からざるは言を持たず：：我日本人は本書に對し尊敬と同情とを表し以て博士に報ゆるところあらんことを希望す」と

自己測量
郵定價金 五拾八錢

これ米國に於ける最新の處世術なり最新の修養法なり而して又實に最新の記術法に成れる名著なり今移して以てこれを我が邦現代の社會に薦めむとするもの他なし吾人が惡徳邪僻の癡人格完成の砥礪立身處生の嚮導社會道徳の軌範として眞に得難き大教訓たるを以てなり來れ青年紳等がこの生活難の世に處して新しき運命の秘庫を開くべき鍵はこゝにあり

亂れ雲
郵定價金 八拾八錢

女史は跡見花蔭先生門下の才媛にして學界の先覺文學士藤井宣正氏の未亡人なり夙に文才と俠氣とを以て知らる「亂れ雲」一編集むる處二十餘章四百五十餘頁諷刺教訓皮肉或は鋭き觀察或は隱れたる温情あらゆる方面を輕妙洒脫なる筆を以て大膽に且つ痛快に描寫し實に一部の現代世相史を成す

新氣運
郵定價金 八拾八錢

斷然傳習と教權の束縛より脱却して世の罵聲嘲笑輕侮憎惡の中に立ち臆面なく忌憚なく無我の愛の根本眞理を吐露して以て混沌たる現代思想界に一道の新氣運を誘導せむと試みたるもの！

學習院教授 鈴木大拙先生著
帝國大學講師
スエデンボルグ
定 價 金 五 十 八 錢
郵 稅 金 八 錢

神學界の革命家、天界地獄の遍歴者、學界の偉人、神秘界の大王、古今獨歩の千里眼、精力無比の學者、明敏透徹の科學者、世俗脫離の高士、之を一身を集めたるをスエデンボルグとなす。吾國今や宗教思想界の風雲漸くまきに急ならんとす、精神を養はんとするもの、時世を憂ふるもの、必ず此人を知らざるべからず。これ此著成る所以。

スエデンボルグ著
鈴木大拙先生譯
新エルサレム
定 價 金 六 十 八 錢
郵 稅 金 八 錢

此書は思想界の奇傑スエデンボルグの新基督教説にして救済には信と行とを要すること愛即ち意志は人格の基礎なること自由あるが故に善悪あるが故に神の榮光彰はること等の諸説を簡明適切に述べたる快著

學習院教授 鈴木大拙先生譯
帝國大學講師
神智と神愛
定 價 金 一 四 五 十 錢
郵 稅 金 十 二 錢

本書は天界地獄の遍歴者として學者宗教家を驚倒せしめたる思想界の奇傑スエデンボルグ氏の人生觀を率直に披瀝したる者也愛は宇宙の本源にして智は愛より生ずる所以より説き起し造化の大功人生の目的を闡明す所論警我斷案透徹譯筆明快

スエデンボルグ著
帝國大學講師
神慮論
定 價 金 二 圓 卅 錢 郵 稅 金 十 二 錢

『神慮論』はスエデンボルグが玄奧神秘なる宗教を知るべき一大著述なり『天界と地獄』は現世と離れて離れざる心界を描出し『神智と神愛』は絶対無限性の神徳を説破し而して『神慮論』は實に此の神徳が萬物の上に現はるゝ所以を詳述したるものにして天界地獄界の遍歴者神祕界の大王神學界の革命家たるス氏の所説を知らむと欲する者は本書を讀め

ポール、ケイラス先生著
學習院教授 鈴木大拙先生譯
阿彌陀佛
定 價 金 三 十 五 錢
郵 稅 金 六 五 錢

阿彌陀佛とは何ぞや是れ佛敎の根本問題也ケイラス博士その彩筆を揮ひ殆ど小説的結構を以て通俗に之が解釋を試む宜なりその歐米讀書界に好評噴々たることや弊社兼に十年博士と居を同じし最も博士と親善なる大拙先生を煩はして此和譯を得たり豈啻に佛の有無に惑ひ心の不安に悶ゆる人のみこれを讀むべしと言はむや

フエヒネル先生原著
文學士 平田元吉先生譯
死後の生活
定 價 金 五 十 八 錢
郵 稅 金 八 錢

本書は現世の事實を基とし最高の詩的想像を參へ或は歸納的に或は類比的に未來生活を縱横に叙述したる詩と科學との靈妙なる融合にして此書によれば千里眼幽靈等の不可思議なる現象も容易に解釋することを得故に本書は親愛者を失ひし人死生の疑惑に苦しめる者の無二の慰藉となり一般の讀者に津津たる興味を配ち又學界研究者に豊富なる暗示刺戟を與ふるや疑ふ可からず

賣文社社長 堺利彦先生著
賣文文集
定 價 金 一 圓 四 錢
郵 稅 金 八 錢

卷頭之飾 著者の友人先輩六十餘名家が著者の人物文章主義、事業に對する長短錯落奇抜痛快の評語序 賣文社の記、著者自ら其の事業を語る 第一編 一、唯物的歴史觀 二、子に對する態度 三、宗教とは何ぞや 四、木下尚江君を評す 第二編 一、暮春の古風 二、子の夢 三、墓地見物 四、寸馬豆人 五、逆徒の死生觀 六、死の趣味 第三編 喜劇「谷川の水」(バーナード、レロウ原作) 第四編 一、告白、荒畑寒村 二、クレンクビニ、大杉榮 三、叛謀人耶穌、高島素之

堺利彦先生著
自傳 赤裸の人
定 價 金 九 拾 錢
郵 稅 金 八 錢

佛國の革命はルソーの「民約論」によりて點火せられ日本の教育界はルソーの「エミール」によりて啓發せらるる波瀾重疊神出鬼没の彼が生涯は彼自ら大膽にこれを告白して餘すところなし今これを譯して彼が眞面目を傳へむとするものは達識簡文の堺利彦先生なり一讀してルソー前に立てるの感を起さしむ

カウツキ先生原著
堺利彦先生譯
社會主義倫理學
定 價 金 一 圓 四 錢
郵 稅 金 八 錢

哲學界には迷妄にして頑冥なる唯心論が跋扈し文藝界には不徹底にして神秘的なる本能主義が流行し宗教界及び教育界には淺薄にして偽善なる因習道德が唱導せらるゝ今日此の明晰透徹なる唯物的倫理觀を以て彼の蒙を啓き此の昧を照すは譯者が深く痛快とする所なり著者カウツキは歐洲社會黨中第一の學者を以て目せらるゝの日本人の學界と文壇とは遂に此書を無視すること能はざるべし(譯者)

堺利彦先生著
樂天囚人
定 價 金 六 拾 錢
郵 稅 金 六 錢

此書は狂暴、不平、怨恨、嫉毒、殘忍、無恥、悖逆を以て世に目せらるる社會主義者が人の子として親として夫として友として將た人類の一員として宇宙の一分子として如何なる態度を持するかを其獄中生活に於て率直に露骨に赤裸々に發揮せる者之を一言にすれば社會主義者の安心を語れる者

森村隠士 久津見藤村先生著
現代八面鋒
定 價 金 八 拾 錢
郵 稅 金 八 錢

物平を得ざれば則ち鳴る而も著者はたゞ自ら鳴るを以て足れりとせず之を發して八面に當り散し十方に喝破すその鋒先の向ふところ女優あり倫理あり藪者あり教育あり浪花節あり哲學あり活動寫眞あり宗教あり眞にこれ多角多趣味の一大珍書

森村隠士 久津見藤村先生著
眞人偽人
定 價 金 八 拾 錢
郵 稅 金 八 錢

先生書を著はすこと數次而して發賣禁止の嚴命を蒙ること亦數次聊か疇癢を起して朝野の名士一百餘人を捕へ大にこれに喰つてかゝる眞人はこゝに其面目を掲げ偽人はこゝにその面皮を剥かるその論辛辣その評深刻洵に筆端風を生じて文に聲あるの概あり

帝國大學講師 萩原雲來先生新著
實習梵語學
郵定價 金一圓七十錢

文學博士 高楠順次郎先生開
曹洞大學教授 立花俊道先生著
巴利語文典
郵定價 金八一錢

慈雲尊者眞筆 高楠順次郎先生序
阿彌陀佛 著
悉曇阿彌陀經
郵定價 金八一錢

平子鐸嶺先生遺著
補校法王帝說證註
郵定價 金八一錢

京都市平安中學講師
トーマス、カビー先生著
英文佛教讀本
郵定價 金五十六錢

帝國大學講師 萩原雲來先生著
梵漢對譯
佛教辭典
郵定價 金五十二錢

文學博士 三宅雪嶺先生著
明治思想小史
郵定價 金六十錢

文學士 沼波瓊音先生著
此筋
郵定價 金七十錢

新佛教徒同志會編
來世之有無
郵定價 金七十錢

大内青巒先生著
結城素明畫伯畫
禪の極致
郵定價 金六十錢

黒岩周六先生著
予が婦人觀
郵定價 金六十錢

釋 清 潭先生著
狐禪狸詩
郵定價 金八十錢

佛教を學ばむとするものは言ふまでもなし印度の文學美術を研究せむとするものも亦梵字梵語を知ることなくしては常に霞を隔てて花を觀るの憾なくはあらずしも邦人にして梵語を學ばむには歐語を知らざるべからざるの不便あり著者既これに憾なき邦語を以てこれを解説せむことに努力するもの實に十數年而して今漸く本書成る自今以後英字母二十六を讀み得る程の人は容易に梵字梵語に通達し得べし殊に悉曇十八章を擧げてこれに新編梵字を配し一々發音を附したる全く斯界空前の試みにして大に天下に誇示するに足るの事業たり

著者南天楞伽島に入りスマンガラ僧正の會下において巴利語を修むること多年其平生手記する所と迦旃延以下原語の文典と歐洲人の手に成れる巴梵兩語の語典とを併せ參考し以て本書を成すに至れり叙述の前後には多大の注意を拂ひて簡より繁に入り易より難に進むの方法に従ひたれば初學者にして巴利語並に梵語を修めんとするものには良好の伴侶たるべし

悉曇阿彌陀經とは古來日本に傳はりたる梵文河彌陀經即ち極樂莊嚴大乘經なり特に悉曇と冠語せしは新體梵字に簡ばんが爲なり梵文に加ふるに漢字羅馬字書を附し脚注には馬博士の訂正本との異同をもあげ終りに訂正本、辭書、唐秦二譯を掲げたり學者此の書によらば悉曇學の一端を窺ふに易からん

『上宮聖德法王帝說』はその記事切實その文詞醇古多く樂業已往の記録を取つて正史の闕を補ひ誠に史家必讀の書たること今こゝに贅するを須むず而して狩谷棹齋先生の『證註』に至つては群說を折衷し正鵠を辨別して先人未發の見解甚だ少からざるは史家の夙に嘆服するところしかも尙多少の遺漏あるを免れざるなり然るに我が平子鐸嶺先生博覽強記にして史眼犀利棹齋先生の未だ見ざるを見未だ言はざるを言ひ誤れるを訂し足らざるを補うて錦上更に花を添ふ敢て之を史家と佛家とに薦むる所以なり

著者は敬虔なる佛教信者として熱心なる佛教研究者として夙に世に推重せらるゝ英人にして本書收むる所釋尊の傳記印度諸王族の佛教傳播に盡し、狀況及歐米に於ける佛教學者の筆に成れる論文英語に翻譯せられたる佛典の拔萃並に將來佛教の歐米に傳播すべき趨勢に關する著者の豫見等凡そ二十餘章蓋し佛教學校の英語教科書として唯一無二の良書たり

本書收むる所顯密二教の法數名目を始め經律論三藏中の學語は勿論佛菩薩天龍八部天象地儀山川草木飲食物數方時より動詞副詞に至るまで語數甚だ豊富にして單に佛教辭典としてのみならず又梵漢辭典として未曾有の寶藏なりこれを以て佛教を知らむと欲するもの梵語を學ばむと欲するものは言ふまでもなく一般語學者印度文學の研究者に取りても亦唯一無二の寶典たり

日本の大思想家三宅雪嶺先生今や思想の最高境に立つて明治思想の變遷を語るまづ明治以前の思想界に筆を起して維新の思想に入り進んで最近四十五年間の政治經濟學術道德宗教教育社會等の各方面に亘り深刻の觀察を過しうして剴切の結論に到る今や大正維新の風雲に際會せる日本國民は明治年間國運の大發展が果して如何なる思想の産物なりしかを知悉して依て以て第二の維新を大成せざるべからず果して然らば此書これ眞に大正國民必讀の書

現時佛壇の飛將軍、沼波先生の著書なり。先生曰はく、「この書に、大知識大感想ありて、天下の士必ず一本を求めよとは言はず。たゞ書中、或物あつて存す。この或物は、或人には輕んぜられんも、或人にはソクゾクと嬉しがらるゝなり。其の嬉しがりそうな方にのみ、これを借む。」と本屋曰はく、「輕んずるも可、嬉しがらるゝも不可なし。たゞ買ふ人の多からむことを、切實に堪へず。」と

吾等の死後はどうなるか地獄があるか極樂があるか抑々吾等の靈魂は滅するの滅しないのか元來吾等に靈魂などいふものがあるのか無いのか凡そ此くの如きの難問題に關し現代各方面の名士二百數十人の解答を得てこれを滿載したのが本書である古來の大疑問も本書一たび出づるに及んで忽ち雲散霧消するであらう

不立文字の教理も、文字に依らざれば知ることは能はず。以心傳心の妙諦も、言語を離れては傳ふることは能はず。但惜しむ。古來禪を説くもの、徒に難解の語句を弄して、人をして愈々迷はしむることを。大内先生學深く徳高く、教禪二面に於て、眞に現代の達人たり。殊に先生平談俗語を以て幽玄の理を説き、深遠の法を語ることを、殆ど天下獨歩、而して本書は即ち先生得意の作、禪の極意、正にこれに盡きたりと稱するも、敢て溢美にあらざるなり。附録『五位頌講話』、また先生獨創の見識を以て、縦横に講解す、蓋近來の大文字なり。

進歩的にして却て稍保守的の檢束あり古きが如くして實は極めて新しき趣味を有する黒岩先生の婦人觀はトルストイ的の絕對貞操觀に配合するに經濟的獨立の實際問題を以てし種々様々の方面よりして斷案の片鱗を示しつゝ遂に人をして成程と承服せしむる老巧親切の文を爲す眞に現今婦人問題の燈明臺也世の年頃の娘その父母及び女子教育家の精讀を冀ふ

今世何ぞ夫れ狐禪狸詩の多きや著者大獅子吼猛然として起ち狐禪の窠狸詩の窟一蹴して之を壞る其の毫端に上りしもの實に此の一書なり今や裝成りて人間に横行す世の狐禪狸詩に太平なる者は讀むも説なしたゞそれ狐禪狸詩に不平なる者のみこれを讀むべし作詩壇上別に一新生面を開き人をして詩禪一味の妙境界に遊ばしむ

村上專精先生序
高島米峰先生著
噴火口
郵定價金 八十錢

著者心内に蓄積する熱火今や轟然として爆發しこゝに礫となり砂となり灰となりて四方に飛散す之を
慘狀と言ふべきか之を偉觀と稱すべきか著者自らこれを知らずたゞ著者はその著「廣長舌」「惡戰」等
に比し來つて本書の愚論惡文更に一段の進境あるを確信するのみ

「東京朝日」記者
杉村楚人冠先生著
ひとみの旅
郵定價金 六十錢

長い足、鋭い眼、明な頭、太いペン、而して此書成る。しかも山水の景を描かず、風月の樂を語らず
専ら現代を寫し、人間を論ず。會て、洛陽の紙價を貴からしめたる「大英遊記」以來の名文にして、又
會て、發賣禁止の嚴命を蒙りたる「七花八裂」以來の奇著なり。

加藤咄堂先生著
書窓車窓
郵定價金 六十錢

天地の秘奧を探り、人心の機微を明にす、乃ちこゝに天籟あり、地籟あり、人籟あり。これによつて
世界の知識を求むべく、これによつて古今の德澤に浴すべし。内に在りては書窓の良師、外に出ては
は車窓の善友、一巻の書また尊貴なるかな。

パナードシヨウ作 堺利彦先生譯
人と超人
郵定價金 九十錢

シヨウ熱全盛の今彼の最大作の譯書出づ彼れの生命哲學彼の兩性觀彼の皮肉彼の諷刺彼の滑稽彼の冷
嘲彼の熱罵悉く此一編の中に在り
譯書内容は本文の外、譯者の序、原著の序、原著通俗版の序、シヨウの人物及著作、革命家必携及其
座右銘、私が倫敦で見た人と超人(松居松葉)等あり。

文學博士 村上專精先生著
六十年
郵定價金 九十錢

これ村上博士が過去六十一年間惡戰苦闘の活歴史を大膽に赤裸々に叙述せられたるものにして現代青
年が以て龜鑑とすべき絶好の立志傳たり殊にその間に於ける佛教の盛衰消長及び教界人物に對する忌
憚なき評論は明治佛教の側面史として教家の一讀を要求するに足るの實益と趣味とを具有する大文字
にして眞にこれ教界未だ有らざる自敘傳なり

内田魯庵先生著
沈黙の饒舌
郵定價金 八十錢

維摩の一默その聲雷の如しといふ今や日本文壇の老維摩内田魯庵先生が沈黙の境中に一大獅子吼を試
み婦人を濟ひ文士を度し靈肉の調和を説き生活の難易を教ふその言の懇切なるその論の穩健なる誠に
人間處世の好南針たりこれを目して饒舌となしこれを評して咄哉と言はむは蓋し未だ方丈の妙諦に參
する能はざるもの

帝國大學講師 鈴木大拙先生著
學習院教授
禪の第一義
郵定價金 八十錢

禪は東洋に於ける精神界の特産なりしかも從來説つて山林の徒のみによりて拈弄せられ活きたる人生
と殆ど没交渉なるかの觀ありしは蓋し未だその第一義を闡明しその着手の處を説述することの徹底せ
ざりしに基するものならずむばあらず著者參禪辨道三十年その實踐の歷程を精叙しその所得の公案を
解説し一は以て初學者の指針となし一は以て人生の苦悶を除去せむとす不立文字教外別傳の禪も本書
出てゝその近代的色彩の顯る鮮なるものあるを看取し得む

東洋大學長 大内青嶽先生著
青巒禪話
郵定價金 四十錢

この人にしてこの著ありといへばそれだけでも澤山なりそれ以上廣告文でコケを感す必要いづこに
かかるしかも試みに二二言を加ふれば平談以て微妙の法門を説破し俗語以て別傳の眞諦を闡明す題を
設くる六十有餘悉くこれ天地の秘奧を探り人心の機微に觸る迷悟凡聖の如きたゞ讀者の擇ぶところに
委するのみ

曹洞宗大學教授 忽滑谷快天先生著
達磨と陽明
郵定價金 四十錢

本書は王禪二學を比較對論して禪學の精髓を發揮すると同時に王學の眼目を豁開して餘蘊なく進徳の
工夫修養の方法爲學の用心精神鍊磨人格養成等一として備はらざるなし眞にこれ精神界の指南針にし
て亦實踐道徳の指導者たり

新井石禪老師著
修道禪話
郵定價金 四十錢

新井石禪老師は學に於て徳に於て舌に於て筆に於て現代禪門第一流の人なり今や世俗の往往にして野
狐禪に満足し邪禪に墮在するもの尠からざるを見て慈心到底黙止するに堪へず茲に活禪談を試みて修
道處世の南針を指示す釋尊一字不説の妙諦達磨西來の眞意こゝに於てか始めて了了明明

建仁寺派管長 竹田默雷老師著
禪の面目
郵定價金 四十錢

語も亦雷の如く默も亦雷の如し本来の面目眞に此の如きのみ今絶版せる『默雷禪話』二巻數百則中より
奇峭の論と懇到の説とを選びて百五十則を獲たりこれを行ふ所以のもの主とし生死街頭に迷惑す
るものをして自性徹見の境地に到達せしめむと欲してなり

「修養世界」主筆 菅原桐禪師著
禪林奇行
郵定價金 四十錢

和漢古今の居士禪僧が奇行住話を蒐むるもの實に百數十項一として古聖證悟の過程前賢參究の所得た
らざるなし綿密なる佛祖の行履澱湖たる禪林の消息正にこゝに盡きたりと稱すべき也

釋宗演 老師著
拈華微笑
郵定價金 八 壹
錢圓

釋宗拈華し迦葉微笑す個中の消息何人か會し又何人か會せざるを聖と稱へむも當らず會せざる者を凡と呼ばむも亦當らず凡聖一如の境地は畢竟此書を心讀し體讀したる者にして始めて到達し得べしとなす耳

曹洞大學長 秋野孝道老師著
禪の骨髄
郵定價金 八 壹
錢圓

以心傳心の禪直指人心の禪そこは何の膚肉も何の骨髄も今吾が秋野老師特に「禪の骨髄」と題して一卷を成す或は言はむは好肉上の翹と易ぞ知らむは指月の指なることを世の指に執着するものは則ち去れ迷雲一たび拂へば眞如の明月歌々として天地こゝに朗然これ此書を學人に薦むる所以

原僧運老師著
禪の捷徑
郵定價金 八 壹
錢圓

教外別傳と説き不立文字と説き而して實參實究を強ふ禪も亦難いかな易ぞ知らむ語默動靜皆是禪喫茶喫飯も亦即ち是れ禪ならざることなきを果して然らば人誰れか禪に眠り禪に覺め禪に生き禪に死せざるものぞ僧運老師八十年の禪生涯その行業直ちにこれ禪の眞諦今婆心黙止し難くて敢てこの捷徑を示す寧ろ却て大道坦々として長安に通ずるものあらむ

荒井涙光先生著
道元禪師
郵定價金 八 壹
錢圓

曹洞宗の開祖道元禪師遠く宋土に渡りて慕道尋師し深く佛陀所説の核心を探り詳に祖師面授の單的を領す而して歸來喝破すらく「空手還鄉」と空手還郷の那一曲知らず何等の妙調ぞ佛法の要旨茲に存し禪の眞髓茲に盡く著者今禪師が一代の行狀事蹟を描寫するに流麗にして巧妙なる文辭を以てし禪師の風手面目をして巻中に躍動せしむ通俗にして文學的なる禪師傳は蓋し此書を以て嚆矢とせむ讀者これに依つて曹洞禪風の淵源を究むべく又これに依つて悟徹の洪範を得べし

曹洞宗大僧教授 原田祖岳老師著
參禪の階梯
郵定價金 八 壹
錢圓

原田老師洞濟二家の宗風を把持し銀山鐵壁容易に攀づべからざる底の禪に姑く階梯を設けて學人のために參禪の一路を示す夫の胡亂に大悟を語りて鬼窟裡の活計を作すが如き野狐精者流は乃ち問はず苟も荆棘林を透過して清風明月の趣を會得せむと欲する者は須らく秩序整然たる階梯を連れ

中原鄧州老師著 飯田權隱居士跋
南天棒禪話
郵定價金 一圓 廿 錢

機鋒辛辣得て近づくべからざるが如くにしてしかも慈教懇到兒女童孩も亦度せずむば止まざるもの實に是れ吾が南天棒鄧州老師の面目なり今著はすところの禪話一卷巻中の所談悉くこれ釋尊拈華し迦葉微笑する底のもの縦横に説き無礙に辯じて眞に四方八面來旋風打の概あり人若し南天の棒禪亂下し來るの間に立ちて平然としてこれを喫了し得ば則ち人間の大事こゝに成るべし驚くばまづ聊かこれを試みよ

慶應義塾 忽滑谷快天先生評釋
和名 士參禪集
郵定價金 八 壹
錢圓

本書は日本に於ては後醍醐天皇花園天皇龜山天皇の聖帝より北條時頼北條時宗武田信玄上杉謙信前田利家楠正成等古今の名臣支那に於ては唐の宣宗皇帝宋の太宗皇帝等の諸帝より黃山谷蘇東坡白樂天張無盡斐休等の碩學が參禪せる佳話を集め且和漢禪匠に關する逸話美談を合せて之に批評を加へ學道の正路を示し在家參禪の資糧に供する者にして讀者をして坐ながら古今の鴻儒碩學と禪を商量し名僧大徳の錯鑿に接するを得しむ

加藤咄堂先生 推讀 笛岡清泉先生著
美人禪
郵定價金 八 壹
錢圓

加藤咄堂先生曰はく「戀に泣く美人が嬌態を寫して佛々祖々の玄機を語る文に艶冶の趣ありて想に超脱の旨を存す孰れか禪孰れか戀『美人禪』の一書讀みて轉々恍惚たり」と
高島米峰先生曰はく「達磨傾城之圖に參透するの具眼を以てせば始めてこの書一卷別傳の妙教理不立の好文字たることを看取し色即空なるところに美人の禪を味ふべく空即色なるところ禪の美人と相見すべし」と

建仁寺管長 竹田默雷老師著
禪機
郵定價金 八 壹
錢圓

不言言の妙諦言ひ得て盡きざる不説説の眞源説き得て至らざるなしその舌鋒銳利直に人間の皮肉を刺し肺腑を刺る正にこれ眞禪機の暴露

高橋竹迷先生新著
隱元・木庵・即非
郵定價金 八 壹
錢圓

著者今流麗なる筆を呵して夙に黃檗三筆の稱ある隱元即三禪師の哀怨なる生涯頹脫なる言行書畫風流の三昧を描寫し以て明朝滅亡史を背景として江戸時代佛教の活舞臺に躍り出でたる黃檗禪の眞面目を傳ふ蓋し禪界最初の著作たり

臨濟大學教授 木宮泰彦先生新著
榮西禪師
郵定價金 八 壹
錢圓

鎌倉足利時代の文化(文學、建築、繪畫、書道、香道、茶道)は一として當時傳來せる禪宗の影響を蒙らざるはなく殊に我國禪宗の始祖たる榮西禪師の偉業海嶽の如き者あり著者今多年の研究によりてその行狀事業著述及び法嗣の事蹟を詳述し以て鎌倉足利時代の文化を大正の今日に展覧し來る單に一禪僧の傳記のみとしてこれを輕々に看過すること勿れ

帝國大學講師 鈴木大拙先生新著
禪の研究
郵定價金 八 壹
錢圓

著者兼に「禪の第一義」を著はして參禪辨道の上に新光明を與へたりしが今やその研究更に百尺竿頭に一歩を進め茲にこの新著を發表し從來の空疎なる談片禪語餘蘊の外に別に充實せる系統禪科學禪の存することを明にして修禪の目的人生の歸趣始めてこゝに確立する所以を力説す洵にこれ禪界空前の新研究なり

東洋大學教授 加藤咄堂先生新著
劍客禪話
郵定價金 八拾錢

吾等一個の戰士として社會に立つや其の生活は命懸にして其の處世は眞劍勝負なり一步を過れば喪身失命忽ち人生の劣敗者たらざるを得ず本書は兩刃相交はるの中に秘術を盡すの劍を説くと共に生死岸頭自在を得るの禪を語る劍客の逸話禪僧の垂示此の劍禪一味のところ直にこれ處世の要訣生活の妙諦事異なりと雖も道は一讀して趣味全巻に横溢し教訓編中に驚つるを覺るべし

東洋大學教授 境野黃洋先生新著
活ける宗教
郵定價金 一圓廿錢

著者が限りなき渴仰と量りなき崇敬とを拂つて居る日本佛教の代表的偉人中特に 聖徳太子 傳教大師 弘法大師 法然上人 日蓮上人 道元禪師 親鸞上人 蓮如上人 白隱禪師の人格と教義と信仰とを精叙したもので正しく一部「列傳體日本佛教史」であるが、世間に有りふれた冷やかな抽象的な人間論の血の氣の通つて居ない學究的なものではなくて此等の偉人が親しく體驗したる内的生活の上に活躍して居る眞の宗教を語つたものであるこれによつて佛教の大意もわかるし健全なる佛教の信仰も理會せられる

東洋大學教授 境野黃洋先生新著
佛教史論
郵定價金 一圓三十錢

觀察の警拔と論斷の明快とを以て佛教史界の權威たる著者が椽大なる史筆を揮つて印度支那日本の佛教が過去三千年間に於ける重要な問題十有數條を研究してこれに快刀亂麻を斷つて結論を與ふ殊に「正確なる事實に基いて自分の立場を定めると同時にどこまでも佛教宣傳の精神を離れざる所」著者の意に誇りとする所にして又最も尊重すべき態度なりとす

豐山大學長 權田雷斧先生著
曼荼羅通解
郵定價金 一圓五十錢

兩部曼荼羅は密教の根本思想とその實踐の理想とを圖畫に託して顯示したるものにして密教の骨髓眞言の極致佛教美術の精華これを外にして求むべからざるなり然るに斯教由來口訣を重じ面授を尙び堅く神秘の關鎖を鎖して容易に門外の窺察を許さず學者頗るこれを遺憾とす於此乎昨秋有志相謀り大阿闍梨權田雷斧先生を請じて曼荼羅の講傳を受く弊社今切にその講録の修正補訂を請ひ茲にこの千古の秘藏を開放するの光榮を得たり學界の慶事と言はずして何ぞや

西川光次郎先生新著
最新健康法全書
郵定價金 八拾錢

著者は現代行はるゝところの最新の強健法及治療法に關し、久しく研究を重ねたりしが、今やその中につき、最も有効なりと信ずる、岡田式靜坐法、二木式深呼吸法、藤田式息心調和法、高野式抵抗抗生法、川合式強健術、葛田式運動療法、井上伸子氏の筋骨矯正術、小森式塗擦療法、石塚式食療法、川端式體育法、アドルフ・フジヤストの土の利用法、ニツアの水の利用法、歐米諸大家の日光療法、各種心理療法等について、その方法と特効とを詳説せり。世の身體虛弱なる人、疾病に悩む人、一度、本書を讀みれば、綜合萬病藥ひ來らむも、敢然としてこれを擊退するの力を獲得せむ。

文學博士 井上圓了先生著
妖怪叢書
郵定價金 八拾錢

井上先生の妖怪研究に於ける殆ど半生の事業たりこれを以てその假怪偽怪の正體を暴露し來つて遂に眞怪の不可思議を闡明するところ誠に天下獨歩にして何人の追隨をも許さざるなり或は「哲學うらなひ」といひ或は「改良新案の夢」といひ或は「天狗論」といひ或は「迷信解」といふ悉くこれ先生の遺著を傾けたるものならざるなし今この四論を合せて此の叢書完成す世の奇を好む人怪を厭ふ人共に本書に就いてこの眞相を看取せば庶幾くば直に無不思議の妙境に到達し得む

帝國大學教授 高橋順次郎先生著
佛教國民の理想
郵定價金 一圓廿錢

本書は國民の理想宗教の理想人格の理想を闡明したる快著也第一編は曾て公にしたる「國民と宗教」にして國民の地位を自覺せしめんが爲に國民性を中心として信仰と修養とを説き第二編は新に試みたる「佛教の地位」にして人格の理想を自覺せしめんが爲に佛教を中心としてその信仰に新生命を附與し實生活に於ける眞宗教の地位を明にし第三編「久修十題」は研究と修養とに關する諸問題を解説せり敢て輕浮なる現代の傾向を快しとせざる人士の精讀を切望す

曹洞大學教授 橫尾賢宗老師著
禪と武士道
郵定價金 八拾錢

大和魂は日本國民本具の佛性にして武士道は日本帝國の正法眼藏涅槃妙心なりこの魂この道禪靈の焔鑪を経て更に堅牢百鍊の鐵の如きを致すこれを以て人若し深厚綿密の風儀を馴致し忠誠奉公の氣象を涵養せむと欲せば須らく武士道を領會し禪理を參究することを要す著者禪門の老碩學一片の婆心此の書を作す所以のもの汎く世人をして禪と武士道とはその骨髓に於て二而不二にして生死透脱の契機實に茲に存するものあることを知らしめむがためなり

文學博士 村上專精先生著
眞宗全史
郵定價金 三圓

▲親鸞聖人の偉業たる眞宗の歴史を説ける書、部分的及び個人的者は其數決して少からずと雖も其の全般を詳述せる綜合的歴史は、實に本書を以て嚆矢となす▲本書は豎に古今を貫き、横に十派に涉り、奈良、平安の古に於ける淨土教の起原よりして、明治大正の佛教の現狀に及び異説異傳を取捨して系統脈絡を分明にし、傳教、慈覺、空也、源信、良忍、覺鑒、法然、親鸞、蓮如、其他諸上人の事蹟は固より、東西本願寺其他本山諸寺の變遷關係に至るまで、一日の下に之を瞭然たらしむ▲即ち題して「眞宗全史」と言ふと雖も、實はこれ完成せられたる「日本淨土教史」なり「日本佛教近世史」なり

高橋博士 關井序 行武善胤先生著
靈雲叢書解題
郵定價金 一圓五十錢

學界の快著出づ。學者の當然究むべきものにして而も到底不可能の事とせられたりしは靈雲の教學にありき。著者之れが研鑽に従事する事前後六年途に寶林の秘願を別決して其の眞髓を剖判し畢る。本書收むる所淨嚴尊者以下靈光照通等の撰五百八十二部千六百七十八卷、一々に披羅し解題したり。殊に其の拾遺校訂せる「新安流聖教總目錄」は密門秘有の珍品にして、更に作家五十七人の事蹟を評傳せる、又別に音韻別、撰家別に兩索引を附録せる等、用意誠に周到と云ふべく、高橋博士の所謂學界稀觀の珍、教界獨歩の快著なり。今美裝して現る。好學之士の一讀を薦む。

チヤールス、原著 久津見藤村先生譯
基督教罪惡史
郵定價金 一圓廿錢

邪宗門か眞宗教か文明の進歩を助け人類の幸福を増したる宗教か將又これを妨げて人を虐殺殘害したる宗教か請ふまじ基督教に對する基督教國民の叫びを聽け羅馬以來今日に至るまでの來歴と功罪とは掌を指すが如く法王と教會と異教と異信と新教と舊教と科學と人生と交互參差して争闘を極めたる史實宛として人類と宗教と文明との一大パノラマを見るが如し蓋し夫の幸徳秋水が生前の遺稿「基督教殺論」以來の怪著なり

西川光次郎先生著
自然療法
郵定價金 八拾錢

本書は著者多年の研究により更にリンドラー博士最近の名著「自然療法の理論と應用」を參考として立論せしものにして從來の藥物療法によつて得られず又精神療法によつても得られざる萬病根治の理論と應用とを詳述すると共に健康の維持と回復との最も自然なる最も合理的なる且つ最も道德的なる方法を指示せる名著なり敢て身體虛弱なる人々疾病に悩む人々及び醫界の諸賢の一讀を強請す

萬病根治
自然療法
郵定價金 八拾錢

本書は著者多年の研究により更にリンドラー博士最近の名著「自然療法の理論と應用」を參考として立論せしものにして從來の藥物療法によつて得られず又精神療法によつても得られざる萬病根治の理論と應用とを詳述すると共に健康の維持と回復との最も自然なる最も合理的なる且つ最も道德的なる方法を指示せる名著なり敢て身體虛弱なる人々疾病に悩む人々及び醫界の諸賢の一讀を強請す

豊田大學長 大僧正 権田雷斧師著
密教綱要
 郵正 税金一圓五十錢

本書は東京帝國大學に於ける最初の公開講座の講録なり由來口訣を重し而授を尙び堅く神秘の關論を鎖して容易に門外の窺察を許さざりし密教も本書出でて、その本體赤裸々その面目露堂々たり大の密教流傳の系統東密台密の異同、顯密二教の比較、六大四曼三密の統釋、即身成佛の深義、野澤十流の分派、灌頂、護摩、加持、祈禱、及び阿字觀等の作法と原理、その他凡そ密教の深義、野澤相とは細大洩すことなく淺深説かざることなし嗚呼此くの如くにして千古の秘藏は茲に遺徳なく開放せられ學界の幸慶何ものかこれに加かむや

東洋大學教授 境野黃洋先生著
八宗綱要講話
 郵正 税金十二錢

佛教各宗の教義を概括して叙述したるもの古來雖然大徳の「八宗綱要」に勝るものなし是を以て佛敎學校は各之を教科參考の書となせり境野先生東洋大學に於て本書を講ずること多年今親しく筆を執つてこの講話を著す通俗平易佛敎の歴史と佛敎の教理とは掌を指すが如く明なり苟も佛敎の大要を理解せむと欲する者のためには誠に絶好の師友なり
 ▲一、原文の外に譯文を加へてこれを上下の二段に對照せしめたる事 ▲二、難讀の文字には悉く假名を附したる事 ▲三、重要な語句は特に抽出して詳解を施したる事 ▲四、各節の講話は丁寧親切を極めたる事 ▲五、索引は極めて便利なる佛敎辭典の代用をなす事

修養世界 主筆菅原洞禪先生著
 和漢古今 **禪門佳話**
 郵定 税金八錢

與奪自在の機略は、玄妙深遠なる禪の眞髓を語り、逆順縱横の消息は、潜行密用の當體を現す、今、和漢古今の名僧高士が、喫茶喫飯裡の王三昧、悟道見性の活作略、一々著者の筆端に躍動して、興經無限、讀者これに依つて個中の端的を會し、本來の面目に接する事を得べし。

高島米峰先生著
廿歳前後主義
 郵定 税金八錢

頭が禿げた髯が白くなつたそれで老人は心細からずや活力禿げず元氣白からずむば百歳と雖も以て青年と稱すべきなり明治維新以來正に五十年社會の各階級悉く老化し去らむとす今にして青年の元氣を振ひ起さずむば我が大日本帝國の將來を如何せむ著者一片憂國の至情は遂に凝つてこの「廿歳前後主義」の高唱となり宗教教育社會風俗等諸般の問題一々捕へて此の主義によりて批判し去る壯烈無比痛快淋漓老人讀まば衰殘の身を忘れて躍進し青年讀まば邁往の勇を生じて突撃せむ。

觀世喜之先生序 英雲外先生著
謠曲と佛教
 郵定 税金八錢

謠曲は佛教を經とし人情を緯とし神社佛閣を背景として創作せられたる我國獨特の文學なりこれを以て佛教の思想信仰術語を理會することなくして謠曲の妙諦に參ぜむとするは蓋し木に縁つて魚を求むるの類しかも從來謠曲に現はれたる佛教を解説して餘蘊なきの書全くあることなく斯界の恨事これに過ぎたるはなしこの時に當りて本書出づ洵に闇夜の燈火にも比すべしとせむ。

夏文社長 堺利彦先生著
猫のあくび
 郵定 税金八錢

一貫した主義、徹底した識見、根據ある學問、是等諸條件を背景とし地盤とした、皮肉と諷刺と滑稽と諧謔とを、圓轉、滑脫、洒落、輕妙に發揮した文學が、著者を措いて亦何處に求め得られるであらうか、此書は、著者が其の本名と變名とを以て合作せる、短篇、小品、觀察、評論、感想、寫生、縮譯、抄録等、あらゆる種類の雜文隨筆を収録す。洵に當今文壇の一珍である。

324

543

終

